



新年のご挨拶

岩手医科大学

理事長

小川 彰

新年あけましておめでとうございます。

主陵会の皆様にはご家族共にご健勝で新年を迎えられました事、心よりお慶び申し上げます。

本年は、本学の源となった私立岩手病院、

医学講習所、看護婦養成所、産婆学校を開設した明治三十年から数えて百二十年目にあたります。現在、全国に医学部を擁する大学は八十一校ありますが、明治三十年当時の医育機関はわずか官立九校、私立四校の十三校でした。私立四校のうち現在なお存続しているのは、本学と東京慈恵会医科大学だけです。

地方にあって、百二十年の歴史を繋いできた私学は本学のみです。地方の貧困な地

域医療を守るといふ強い思いがあつてこそ、幾多の苦難や危機的状况を乗り越えることが出来たものであり、先人の御労苦には頭が下がる思いです。

創立百二十周年の今年は特別な年になります。記念事業の核ともなる一、〇〇〇床の新附属病院が着工されます。運用は平成三十一年秋を予定しています。また、創立者三田俊次郎が医学講習所のみならず看護婦産婆学校を併設した意味は、医師のみを育成しても地域医療の改善はない。多職種連携、看護師など医師以外の専門医療職の養成が必要との考えからです。チーム医療の概念すらなかった明治の時代にこの考えで学校を創った先見性に改めて敬意を表します。

す。今年から念願の四年制看護学部が発足し、歴史に翻弄され分離されていた看護・助産・保健師の養成が始まり、医・歯・薬・看護の医系総合大学が完成します。

この様に、多くの先人の御努力があつたからこそ現代に本学が存在し、我々が学ぶことが出来たのだという事を忘れてはなりません。我々にはこの様な先人の並々ならぬご苦労のもとで存続してきた「岩手医科大学」を後輩、将来の国民医療のために、存続・発展させてゆく責務があるのです。教職員一同一致一丸となって努力して参ります。主陵会の皆様には、物心両面の御援助をお願い申し上げます、年頭の御挨拶と致します。



新年、明けましておめでどうございませう

岩手医科大学 学長 祖父江 憲 治

明けましておめでどうございませう。圭陵会の先生方におかれましては、御健勝に新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

新年の幕開けとともに、平成二十九年は本学にとりまして記念すべき一年となります。

第一に、本学創立百二十年の節目にあたり、四月二十日には記念式典の開催を予定しております。次に、これ迄準備を進めてまいりました矢中新病院の建設が、本年よりいよいよ開始されます。さらに医学部、歯学部、薬学部に続きまして、四月より看護学部の新入生を迎えることになり、医・歯・薬・看護学部体制による名実ともに医療系総合大学として再スタート致します。

建学以来百二十年という長い歴史を刻んできた本学であります。ここには数多くの圭陵会の諸先輩、先生方の温かい御気持ちと御協力に支えられながら今日に到った歴史でも

あります。現在、岩手医科大学創立百二十周年

記念誌を作製中ですが、この記念誌には建学当初から今日に至る先人、諸先輩、先生方から

職員の皆様方の血と汗と涙の苦節百二十年が集約されています。この歴史の重みを双肩に

感じつつ、教職員一同さらに次なる創立百五十年、二〇〇〇年に向けて努力してまいります。

矢中新病院は一、〇〇〇床規模の世界屈指の大病院として、平成三十一年九月に開院予定です。その後、内丸メデイカルセンター

建設に入ることになってまいります。矢中新病院と内丸メデイカルセンターは、周辺医師会や

関連病院の先生方と連携した病診・病病連携により従来以上に地域医療を推進するとともに

に、先進医療基地としても岩手全県、北東北、さらには東北の中核拠点病院として貢献する

重大な使命を果してまいります。このように矢中新病院と内丸メデイカルセ

ンターは大診療施設であり実習・研修病院ともなっていますが、矢中キャンパス内にすでに建設されている医・歯・薬・看護学部(看護学部は新たに設置中)の教育・研究施設も最大限に使用し、次世代医療人となる学生教育と医療専門

人としての卒後教育を行なうのみならず、基礎と臨床分野の連携による医療イノベーションを新興し、魅力ある大学を情報発信してまいります。また、全国からも多くの医療人を受け入れて高度医療専門人を養成し、岩手から東北のみならず、日本全国さらに世界に雄飛する

医療人造り(人造り)が重要であると考えています。

岩手医科大学の教職員一同、一丸となり新

生岩手医科大学のさらなる発展に努力する所存です。圭陵会の先生方におかれましては、

今後ともに御教示と御支援賜りますようお願い申し上げます。